

物性研だより

第33卷
第4号
1993年11月

目 次

○ 物性研究所改組計画	1
物性研究所談話会	9
物性研ニュース	
○ 東京大学物性研究所 助手公募	11
○ 人事異動	13
○ 平成5年度 物性研究所協議会委員名簿	15
○ 平成5年度 後期短期研究会一覧	16
○ 平成5年度 後期外来研究員一覧	17
○ 平成6年度 前期共同利用の公募	47
○ テクニカル・レポート 新刊リスト	70
編集後記	

東京大学物性研究所

ISSN 0385-9843

物性研究所改組計画

まえがき

物性研究所がキャンパス移転を想定して将来計画を検討し始めてからすでに久しい。その間、キャンパス問題についてはさまざまな経緯をたどってきた。近年は、東京大学の総合的キャンパス整備計画の一環としての三極構造の一翼を担う柏新キャンパスへの移転を前提とした将来計画の検討が進み、漸くそれが現実のものになろうとしている。現在、東京大学では柏キャンパスを取得する概算要求に向けて、同キャンパス全体のアカデミック・プランが集中的に議論されている。その中で、物性研究所は移転の先頭をきる部局として、具体的移転計画を策定しなければならない段階にきている。

物性研究所の将来計画については、平成2年5月に「物性研究所将来計画概要（案）」を公表して物性研究者の批判を仰いだ。その後、各種のアンケート調査や外部研究者を委員に迎えた所内の将来計画委員会、また物性専門委員会、物性委員会など様々な場での議論を踏まえて、平成4年6月に新しい研究センター群構想にもとづく「物性研究所将来計画－中間報告－」を作成した。（「物性研だより」1992年9月号参照）。昨年度は、これにもとに各種討論会が開催され、更に内外での議論が等で重ねられた。その際出された外部からのいくつかのご意見に対する物性研究所の見解を「物性研だより」1993年1月号に掲載すると共に、平成5年2月にはあらたに「物性研究所将来計画」を公表した。その後は、物性専門委員会の下に設けられた将来計画に関する拡大ワーキンググループの会合において、物性研究の全国ネットワーク構想の検討と平行して物性研究所将来計画が集中的に議論されて来た。所内では、移転準備室や将来計画委員会で諸計画の調整が計られ、計画の一部の手直しが行われた。組織構成についても、現在の法規内で実現可能な計画として、研究センター群組織からより現実的な形態に直し、「物性研究所改組計画」の概要を策定するに至った。

この改組計画は11月10日および11日に開催された学術会議関連委員会（物性専門委員会、物理学研究連絡会）でも議論され、その骨子が承認されるに至った。本計画では、従来の研究センター群構想から〔大部門〕+〔施設〕という組織に再編成が行われているが、研究センター群構想の精神は、各部門、施設に受け継がれている。当面、移転の概算要求は本大綱をもとにして具体的な作業が行われることになるが、今後も全国の物性研究者のご意見を反映させつつ、更に改善を加え、第三世代物性研究所の実現に努力していく所存である。

物性研究所 所長 竹内伸
将来計画委員会委員長 安岡弘志

I 基本理念と方針

物性科学という学問は常に流動的である。それは、新しい物質、新しい機能や物性の発見による研究対象の推移、新しい測定技術の開発に伴う研究の格段の深化、また、先端技術の進歩によって昔は全く考えられなかった人工物質の合成など様々な要因による。物性科学の総合的研究所を標榜する物性研究所も、時代の要請にこたえ、最先端の国際的研究所であり続けるためには、このような物性科学の流動性に対応していかなければならない。また、全国共同利用研究所という立場から、我が國の他機関における物性研究体制の状況の変化に応じて、柔軟にその共同利用のありかたも変革していかなければならない。更に、ますます進む研究の国際化への対応も重要である。物性研究所は、1980年に、設立以来の物性研究の諸分野を網羅する部門構成による総合的研究体制から、極限物性を中心とした重点研究体制への移行が行われ、大部門制がしかれた。いわゆる第二世代の物性研究所の誕生である。しかし、この大部門制発足以来十数年が経過した現在、この研究体制も所期の目的を達成しつつあり、いろいろな意味で次期の新しい変革を迫られている。ここで、これまで物性研究所が歩んできた歴史と蓄積の上にたった第三世代の物性研究所像を確立する必要が生まれてきている。

現代の高度な技術開発においては、機能的に優れた物質の開発が不可欠であり、かつ、基礎的物性のデータ集積と理論的解釈が新しい物性や機能を発現する物質開発の指標を生み出すことを考えると、次世代の技術革新は基礎的物性研究の一層の推進なしには進展し得ない。また、ともすれば、新材料の偶発的発見に基づく物性研究が追従するというこれまでの物性研究の形態も次世代においては変わらざるを得ない。このような認識に基づいて、第三世代の物性研究所は、①興味ある物性を示す新しい物質を実験的・理論的に構築すること、②複雑な物性現象を精密に測定する新しい手段の開発とそれを用いた物性測定及び解析を遂行すること、③発現された物性や機能を支配する要因を物理的・化学的素過程に分割し、それらを理論的に分析・推論し新しい概念を導出すること、の三つの基本姿勢によって構成される。これらを有機的に結合し、総合的に研究を推進することが、基礎物性研究推進の不可欠の条件となる。このような総合的研究態勢の中で、研究者が物性科学的興味に基づいて自由な発想のもとで研究を展開し、その中で特に緊急を要し重要な研究分野については人材的にも予算的にも充実をはかり、我が国のみならず世界における先導的で、かつ、国際的にも開かれた研究組織を志向する。このような先端性を具備した総合研究所はいわば物性科学のセンター・オブ・エクセレンス（COE）を形成する。

現在、我が国には基礎科学における国際的貢献を拡大することが要請されているが、これは基礎科学において質的に高度な研究成果を生み出し、研究内容の量的拡大を計り、研究者の交流と情報の交換と提供の場を拡大することによって達成される。これらのいずれに対しても、国内に中核となる研究組織が存在することが重要であり、その任にあたる研究組織は、総合的な研究機能を有し、かつ、卓越した能力を持つ必要がある。もとより、一つの研究所のみによって物性科学の多岐にわ

たる分野を質と量の両面から先導することは不可能である。当然多くの研究成果が全国の大学や他の研究機関によっても生み出されることになるが、常に水準の高い学術研究を積極的に推進していくためには、先導的役割を担った研究機関を中心に関連研究組織の密接なネットワークを形成することが必要である。その際、先導的研究機関は不可避的に独自の特徴をもつことになるが、基本的には研究内容の先端性、総合性、開放性が要求される。物性研究所がこの改組計画として目指すものは、時代の要請に適した研究組織に脱皮し、先導的な機能を有する研究所を作り、このような研究動向への先駆けとなることである。

以上のような理念のもとに、物性研究所は、キャンパス移転を伴う将来計画として、現行の組織形態を廃止し、以下に述べる新しい組織に改組・拡充し第三世代の物性研究所を創出する。また、この構想は、現在東京大学で進められているキャンパス整備計画の一環として、「柏新キャンパス」に物性研究所が全面的に移転することを想定して立案されている。したがって、研究計画や共同研究、大学院教育等の詳細は、全国の諸機関における物性研究の将来計画や物性科学における研究のネットワーク化構想に立脚しているのみならず、柏移転を計画している東京大学内の関連部局の諸計画との整合性についても配慮を払った案である。

II 組織と運営

21世紀の我が国における物性科学のCOE的役割を担う目的で、物性研究所における現在の大部門制を廃止して、重要分野を精選し、それらを高度に凝縮した新しい「研究部門」群と全国的な共同利用の中核となる「研究施設」群及び「物性情報センター」によって構成される新しい研究組織に改組する。

研究部門は、物性科学における将来の基礎的研究の重要なテーマを多角的に研究する複数の研究室により構成され、国際的にも開かれた能動的研究を遂行する。各研究部門内には、それぞれの研究プロジェクトに対応した、先端技術を駆使する実験設備を完備し、必要に応じて特殊な研究技術開発を推進する「開発室」を設置する。移転時に考える中心研究テーマは、新物質科学、量子物性、表面物性、物性理論、パイロット領域、ビームプローブ物性、多重極限物性、先端分光の8テーマであり、夫々に対応して8研究部門を設立する。比較的大型設備を擁した全国共同利用の施設としては、中性子散乱、高輝度光源（SOR）、物質総合評価、計算物理（スーパーコンピューター）の4研究施設を設置する。なお、研究テーマの硬直化を避ける目的で、各研究部門や施設における研究プロジェクトは、それらの存立の目的も含めて、適当な年限をもって評価・見直しを行うものとする。このことにより、物性研究所としての研究体制の流動性や自己変革機能を備えると共に、それに伴う人事交流の促進を図るものとする。更に、物質の基本的な物性に関するデータベースの構築と全国物性研究者へのサービスおよび情報交換の場を提供する組織として「物性情報センター」を設置する。

III 研究のネットワーク化と学内外共同利用

広範な物性科学の研究領域のすべてを一研究所で先導することは不可能であり、我が国に於けるこの分野の健全な発展のためには、全国的な研究のネットワークの構築が不可欠である。そのなかで、大型装置や中型装置の集合体として機能する領域は共同利用の中核として全国に少數配置することが適当であるが、物性研究所は中性子散乱、高輝度光源、物性研究専用大型計算機、総合的物質評価、物性情報サービスの分野を担当する。その目的のため上記4施設及び1センターを整備して全国共同利用体制を確立する。比較的中型や小型の研究設備を中心とする研究領域は全国数箇所に配置して夫々が相補的な関係で発展することが望まれるが、本計画の各研究部門は、これまでの物性研究所の研究活動、将来の研究の先導性、全国的な役割分担等を考慮して立案されている。

更に、柏キャンパス移転後の学内共同研究に関しては、東京大学の三極構造の一極として、研究・教育の新展開が期待されている柏キャンパスにおいて、物性研究所の研究面に対して果たす役割も重大である。特に、関連部局との新しい共同研究体制の確立は重要な課題である。具体的には、学内の「放射光科学研究推進懇談会」における物性研究所高輝度光源計画に対する共同研究推進や、理学部が提案している柏キャンパスにおける全学的な「東京大学高等科学研究推進機構（仮称）」の具体化に対して、物性科学の分野で積極的な役割を担っていくものとする。

IV 大学院教育と若手研究者の養成

最先端の物性科学の総合研究を行う共同利用研究所としての特色を生かした若手研究者の養成は、物性研究所に課せられた任務であると同時に、研究活動に新鮮な活力を与えるという重要な側面を持っている。ポスト・ドクトラル制度の導入や大学院教育はそのための具体的方策である。物性研究所の基本的性格と整合性を持たせるには、特に前者の充実が強く望まれるところである。現在柏キャンパスには関連部局として「創造理工学研究科（仮称）」の設置が全学的に検討されているが、それが実現した場合には物性科学の分野における協力講座として参画し大学院教育の一翼を担うことになる。

V 研究所の国際化

物性研究所ではかねてより我が国における物性研究の中心として、例えば日米協力「中性子散乱」などの国際的研究協力活動に努めてきたが、本計画の研究部門群化に伴い、更に世界に開かれたC O Eとして国際的活動を強化する。

具体的には以下のようない活動を物性研究所独自のものとして制度化する。

- (1) ISSP国際シンポジウムの開催、
- (2) 外国人ポスト・ドクトラル・フェロー制度の新設、
- (3) 外国人客員教授／助教授招へい制度の新設。

VI 人員、予算、キャンパス計画

本改組計画はキャンパス移転を前提として、第三世代の物性研究所を目指して立案されたものである。しかしながら、上記計画すべてを移転と同時に実現する事は困難であり、その実行は実現可能な年次計画に基づくことになる。

以下は、本改組に伴う人員、予算、所要面積に関する計画である。

【人員】必要な研究職員（所員、助手、技官）及び事務職員

研究部：	教授	35名	(10名増員／約40%増)
	助教授	41名	(9名増員／約28%増)
	助手	84名	(39名増員／約87%増)
	技官等	85名	(32名増員／約60%増)
事務部：	事務官等	50名	(12名増員／約32%増)

★なお、研究部門及び施設には、客員部門、流動部門、寄付部門等の制度を取り入れて研究の活性化と同時に研究者の流動性を図るものとする。また、技官等の組織化については別途考慮する。

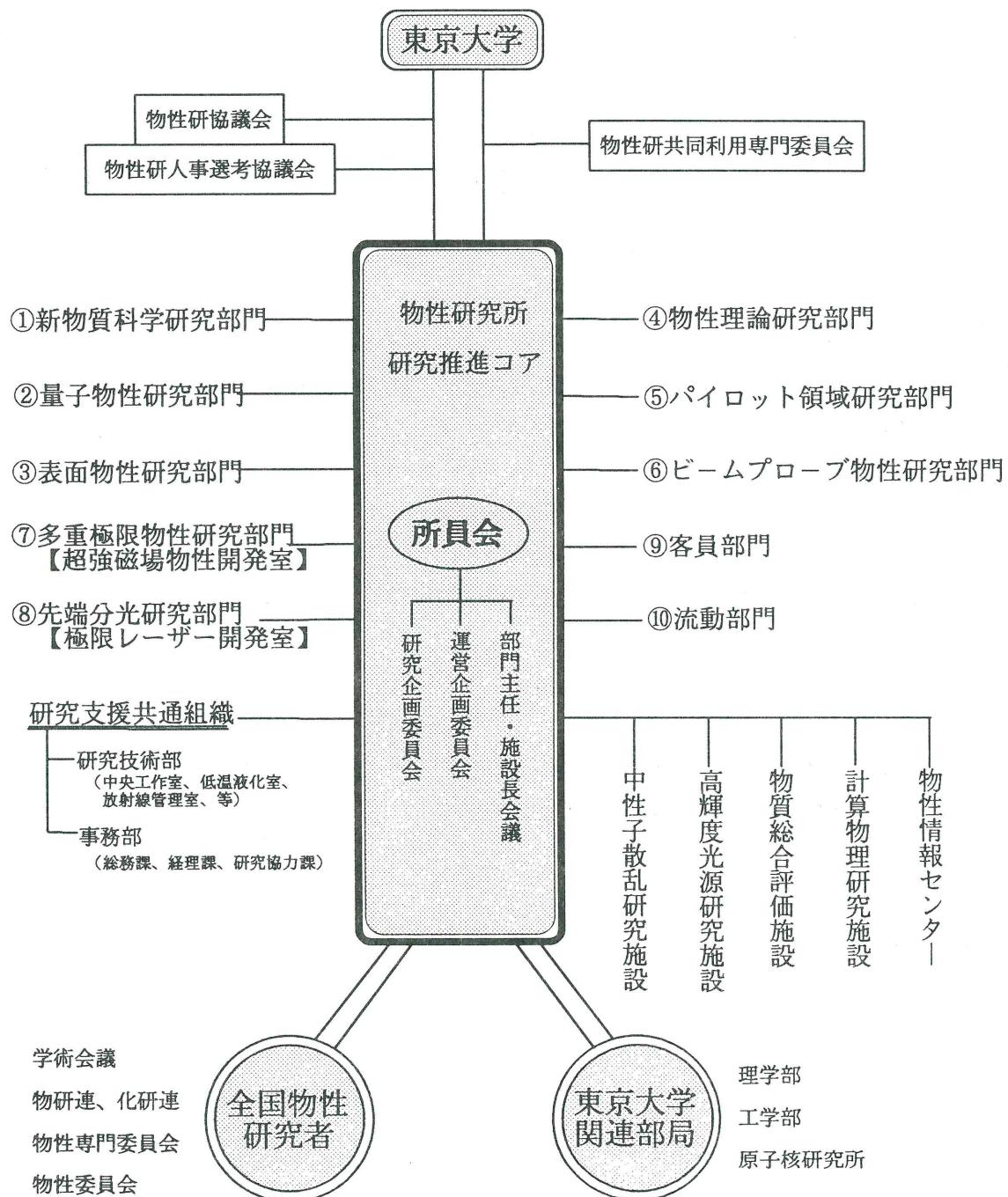
【予算】	移転と同時に必要な設備経費	約 90 億円
	移転後の設備計画経費	約 340 億円

★ただし、上記経費には建屋並びに既設装置の移転及び移転後の設置、調整に必要な費用は含まれない。

【所要面積】 約 12 ヘクタール

★ただし、この他にキャンパス共通の職員宿舎、共同利用研究者宿舎、大学院学生寮、外国人宿舎、講堂（国際会議場を含む）、食堂、売店等が必要となる。

物性研究所組織概念図



研究部門、附属施設等の概要

① 新物質科学研究部門

先端技術による物性測定と物質合成を基礎とした物質科学の総合的研究を推進する。当面の重要課題として、遷移金属化合物、重い電子系、有機物質などの興味ある物性の発現の基本となる強相関電子系の量子多体効果の解明を目指す。

② 量子物性研究部門

人工格子やメゾスコピック系など人工的に制御された界面や超構造において展開される電子物性の研究や、超低温度領域における量子液体の界面物性や超流動の新局面の研究を推進する。また、量子凝縮系の新しい秩序相の探索にも取り組む。

③ 表面物性研究部門

固体表面に特徴的な動的現象に対する電子物性の研究に重点をおき、表面非平衡現象、表面反応の特異性、触媒作用の本質の解明を目指す。また、結晶表面でおこる構造、超伝導、磁性等の相転移を電子物性の立場より研究する。

④ 物性理論研究部門

計算物理研究施設と緊密な連携を保つつ、固体物性の総合的理論研究を推進する。また、各実験グループと直接的な協力関係を確立して、現実的な問題の解決を行うと同時に研究計画立案にも積極的に参画する。

⑤ パイロット領域研究部門

物性物理の周辺で、将来新しい展開が開ける先導的研究領域を研究者の自由な発想のもとで推進する。例えば、物質科学としての地球科学や有機化合物、高分子、生体へと繋がるソフトマテリアル等の研究が挙げられる。

⑥ ビームプローブ物性研究部門

X線、電子線、中性子線、ガンマ線、ミュー中間子ビーム等を用いた物性研究を推進する。
(中性子線を用いた研究グループは、中性子散乱研究施設との研究上のインターフェイス的役割も果たす。)

⑦ 多重極限物性研究部門及び【超強磁場物性開発室】

多重極限下での新しい基底状態と励起状態の創生を、強相関電子系物質等を取り上げて研究する。物性研究専用超強磁場の開発とそれを用いた超強磁場物性（磁場誘起電子相転移や磁気相転移等）の研究を推進する。

⑧ 先端分光研究部門及び【極限レーザー開発室】

レーザー分光、S O R 分光、コヒーレント量子分光等先端光物性の総合的研究を展開する。また、超短パルス波長可変高出力レーザーと超短波長域レーザーの開発とそれらを用いた物性（内殻励起状態の動的性質など）研究を推進する。

⑨ 中性子散乱研究施設

原子力研究所の研究用原子炉を用いた中性子散乱研究の全国共同利用の中核機関としての役割を果たすとともに固有の物性研究及び装置・測定法の開発研究を行う。また、日米協力「中性子散乱」等、国際協力事業の実施機関の役割も果たす。

⑩ 高輝度光源研究施設

挿入型光源を主体にした1.5GeVの低エミッタンス電子ストレージリングの建設と高輝度放射光に適合した先端的分光測定系の整備を行い、S O R 分光研究の中核機関としての役割を果たす。

⑪ 物質総合評価施設

全国共同利用として、物質の総合的評価（構造解析、組成分析、基本物性測定等）体制を確立し、広く物性研究者に対し施設利用の場を提供する。また、新しい評価法や合成法の開発的研究にも取り組む。

⑫ 計算物理研究施設

物性研究における大型計算を支援する目的で、全国共同利用の大型計算システムとしてスーパー・コンピューター・システムを設置し、特に萌芽的研究の支援等を可能にするような、適切な運用を行う。

⑬ 物性情報センター

物質の基本的な物性に関するデータベースの構築と全国物性研究者へのサービスを行う。また、国内外の物性研究者に情報交換の場を提供する。

⑭ 研究支援

研究技術部、事務部。特に、工作室、低温液化室、放射線管理室、環境安全管理室、図書室、事務組織等の充実を計る。

物性研究所談話会

日 時 1993年11月15日（月）午後1時30分～2時30分
場 所 物性研究所 旧棟1階講義室
講 師 Prof. W. Mönch
(所属) Laboratorium für Festkörperphysik,
Universität Duisburg
題 目 New Developments in Metal - Semiconductor Contacts :
Variation of Barrier Heights by Bulk and Interface
Structure

要 旨

The chemical trends of barrier heights reported for 3C- and 6H-SiC Schottky contacts are analyzed by using the MIGS- and -Electronegativity model. It predicts the barrier heights on 6H-SiC and 3C-SiC to vary by the difference of the respective band-gap widths and the slope parameters to be identical. These conclusions agree with the experimental data.

Tung was the first to report on correlations between interface structure and barrier height in Schottky contacts. Hong et al. observed a 7×7 reconstruction after Ag deposition at room temperature on clean Si(111)- 7×7 surface which transforms to a 1×1 interface structure during annealing treatments above 250 °C. We determined barrier heights of 0.68eV and 0.72eV, respectively, for such contacts.

日 時 1993年11月19日（金）午後1時30分～2時30分
場 所 物性研究所 旧棟1階講義室
講 師 Dr. Leo Kouwenhoven
(所属) (Lawrence Berkley Laboratories
University of California at Berkeley)
題 目 Quantum Confinement and Single Electron Charging
in Mesoscopic Nanostructures
要 旨 The transport properties of small structures are determined by both

the particle - in - a - box states and the charging energy of a single electron. These nanostructures are therefore sometimes called artificial atoms. We will discuss experiments on a widely used system consisting of a GaAs/AlGaAs heterostructure with sub micron gates on the surface.

(講師の紹介)

Dr. Leo Kouwenhoven は、メゾスコピック系において、量子ポイントコンタクトや量子ドットを使った実験で、Delft 工科大学大学院に在学中から世界的に有名となった研究者です。

柿量子波プロジェクトのつくばでの国際シンポジウムに招待講演された機会に、学生諸君向けの話ををお願いしました。

物性研ニュース

東京大学物性研究所の助手公募の通知

下記により助手の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

(1) 研究部門名等及び公募人員数

理論部門 助手 1名

(2) 研究・業務内容

計算物理学の研究を推進するとともに、並列処理計算機を含む物性研究所計算機システムの効率的な管理運用体系の構築に協力できる意欲的な研究者を希望します。

(3) 応募資格

修士課程修了、又はこれと同等以上の能力をもつ人。

(4) 任期

5年以内を原則とする。

(5) 公募締切

平成6年1月10日(月)必着

(6) 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

(7) 提出書類

(i) 推薦の場合

- 推薦書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴でよい）
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷

(ii) 応募の場合

- 履歴書
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷
- 所属の長又は指導教官等の本人についての意見書（宛先へ直送のこと）
- 健康診断書

(8) 宛 先

〒106 東京都港区六本木 7 丁目22番 1 号
東京大学物性研究所 総務課人事掛
電話 03 (3478) 6811 内線 5021, 5022

(9) 注意事項

理論部門 助手 応募書類在中、又は意見書在中の旨を朱書きし、書留で郵送のこと。

(10) 選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

平成5年11月1日

東京大学物性研究所長

竹内伸

人 事 異 動

1. 研究部

(辞職)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
凝縮系物性部門	教務職員 吉田 美穂子	5. 9. 30	辞職

(休職更新)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
理論部門	助手 常次 宏一	5. 10. 1	平成6年9月30日まで

(採用)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
凝縮系物性部門	助手 遠藤 彰	5. 10. 1	採用
中性子散乱研究施設	技官 渡邊 聰	5. 11. 1	"

(併任等)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
(客員部門) 極限物性第二部門	教授 高柳 滋	5. 10. 1	本務：北海道教育大学教授 教育学部札幌分校 (6. 3. 31まで)
" "	助教授 中山 則昭	"	本務：山口大学助教授 工学部 (6. 3. 31まで)
固体物性部門	" 近藤 泰洋	"	本務：東北大学助教授 工学部 (6. 3. 31まで)

2. 事務部

(転出)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
経理課	施設掛設備主任 伊藤正秀	5.10.1	施設部機械設備課 機械第二掛主任へ
総務課	図書掛 久保田壮活	"	教養学部図書館 図書課受入掛へ

(転入)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
総務課	図書掛 笠原政宏	5.10.1	附属図書館総務課 企画涉外掛より

平成 5 年度 物性研究所協議会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東北大(理)	教 授	遠藤 康夫(再)	H.4.9.1 ~ H.6.8.31	物研連
阪大(工)	"	興地 斐男	"	"
慶應大(理工)	"	川村 清	"	"
東北大(理)	"	小松原 武美	H.5.4.1 ~ H.6.8.31	"
阪大(基礎工)	"	張 紀久夫	H.5.9.1 ~ H.6.8.31	"
京大(理)	"	廣田 裕(再)	"	化研連
東北大(金研)	"	鈴木 謙爾(再)	"	東北大・金研
高エネルギー 物理学研究所	"	岩崎 博(再)	"	高工研
東大(工)	"	藤原 毅夫	"	東大・工
東大(理)	"	鈴木 増雄(再)	"	東大・理
"	"	井野 正三(再)	"	"
"	"	近藤 保(再)	"	"
分子科学研究所	"	丸山 有成	"	分子研
京大(基研)	"	長岡 洋介(再)	"	京大・基研
東大(物性研)	"	松岡 正浩(再)	"	所員会・ 所内委員
"	"	村田 好正(再)	"	"
"	"	安岡 弘志(再)	"	"
"	"	小谷 章雄(再)	"	"
東大(工)	学部長	岡村 弘之		官職指定委員
"(理)	"	小林 俊一		"
"(核研)	所長	山崎 敏光		"
"(事務局)	局長	佐藤 國雄		"

平成5年度 後期 短期研究会一覧

研究会名	開催期日	参加予定人員	提案者
物性物理の現状と今後の方向	11月4日 11月5日 (2日間) 10:30~	60名 (13名)	○斯波弘行(東工大・理) 小松原武美(東北大・理) 安岡弘志(東大・物性研)
$\pi-d$ 相互作用を持つ遷移金属錯体 -開発の現状と物性-	12月13日 12月14日 (2日間) 9:30~	50名 (17名)	○小林速男(東邦大・理) 城谷一民(室蘭工大) 榎敏明(東工大・理) 薬師久彌(分子研) 木下 實(東大・物性研) 加藤礼三(東大・物性研)
多重極限下の物性研究 -現状と将来展望-	1月19日 1月21日 (3日間) 13:30~	100名 (27名)	○毛利信男(東大・物性研) 三浦登(東大・物性研) 石本英彦(東大・物性研) 伊土政幸(北大・理) 本河光博(神戸大・理) 天谷喜一(阪大・基礎工) 都福仁(阪大・理)

○印は提案代表者

平成5年度後期外来研究員一覧

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
筑波大 (物理工学) 助教授	青木 貞雄	10/1~3/31 上記期間中 (日帰り4回)	レーザープラズマX線 によるピコ秒X線顕微 鏡の研究	黒田
北大 (工) 教 授	瀬尾 真浩	11/10~11/12	電気化学的に処理した 金属表面の構造と反応 性	田中
北大 (工) 助教授	高橋 英明	10/20~10/23 1/17~1/19	金属表面の溶液中での 電気化学的酸化	"
金沢大 (理) 助教授	鈴木 治彦	10/25~10/30 1/31~2/5	金属中の核スピン秩序	石本
東邦大 (理) 教 授	小林 速男	10/1~3/31 上記期間中 (週1回)	分子性伝導体の合成と 評価	加藤
北大 (工) 助教授	毛利 哲夫	10/1~3/31 上記期間中 (2泊3日・2回)	合金状態図の第一原理 計算	寺倉
奈良県立医科大 助教授	赤井 久純	10/1~3/31 上記期間中 (2泊3日・2回)	電子論と分子動力学の 結合	"
姫路工大 (理) 助教授	石井 靖	10/1~3/31 上記期間中 (2泊3日・2回)	強相関系の電子状態	"
広島大 (理) 助教授	小口 多美夫	10/1~3/31 上記期間中 (日帰り4回)	電子状態計算手法の開 発	"
日本電信電話(株) (基礎研) 研究員	上田 正仁	10/1~3/31 上記期間中 (週5回)	メゾスコピック系にお ける量子輸送現象	安藤

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
山口大 (育) 助教授	岡田耕三	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (3泊4日・2回)	dおよびf電子系の高エネルギー分光理論	小谷
岡山大 (理) 助教授	町田一成	11/ 9~11/11 12/13~12/17	低次元導体に於ける磁場効果	甲元
姫路工大 (理) 助教授	長谷川泰正	2/15~ 2/18 3/ 8~ 3/11	周期ポテンシャル中の電子に対する磁場効果	"
東北大 (理) 助教授	神木正史	12/13. 10/ 8 ~10/9	物性研究における中性子分光器の有効利用について	吉沢
京大 (工) 助手	長谷川博一	12/13. 10/ 8 ~10/9	高分子研究における中性子分光器の有効利用	"
阪大 (理) 講師	稻葉章	12/13. 10/ 8 ~10/9	化学における中性子分光器の有効利用について	"
東北大 (理) 教授	佐藤繁	10/28~10/29	アクチナイド化合物の電子状態の研究	石井
東北大 (理) 教授	山川達也	12/13~12/14	高輝度光源の基本設計	"
広島大 (理) 教授	谷口雅樹	10/28~10/29	Ce化合物の光電子分光実験	"
東北大 (理) 助教授	鈴木章二	11/18~11/19 1/20~ 1/21	高輝度光源に適合する分光光学系の基本設計	柿崎
東北大 (科学計測研) 助教授	服部武志	11/18~11/19	高輝度光源を利用する実験設備の基本設計	"

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (科学計測研) 助 手	柳 原 美 廣	11/18~11/19 1/20~ 1/21	高輝度光源に適合する 分光光学系の基本設計	柿崎
群馬大 (育) 教 授	菅 原 英 直	11/18~11/19 1/20~ 1/21	"	"
名大 (理) 教 授	関 一 彦	11/18~11/19	高輝度光源を利用する 実験設備の基本設計	"
大阪大 (基礎工) 助 教 授	大 門 寛	11/18~11/19 1/20~ 1/21	"	"
大阪市立大 (工) 助 教 授	石 黒 英 治	11/18~11/19 1/20~ 1/21	高輝度光源に適合する 分光光学系の基本設計	"
高工研 教 授	宮 原 恒 显	11/18~11/19 1/20~ 1/21	高輝度光源を利用する 実験設備の基本設計	"
高工研 助 教 授	田 中 健 一 郎	11/18~11/19 1/20~ 1/21	"	"
高工研 助 教 授	伊 藤 健 二	11/18~11/19 1/20~ 1/21	"	"
高工研 助 教 授	柳 下 明	11/18~11/19 1/20~ 1/21	"	"
高工研 助 手	加 藤 博 雄	11/18~11/19 1/20~ 1/21	"	"
分子科学研 教 授	小 杉 信 博	11/18~11/19 1/20~ 1/21	"	"

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (科学計測研) 助教授	渡辺 誠	11/18~11/19 1/20~ 1/21	高輝度光源に適合する 分光光学系の基本設計	柿崎
東大 (核研) 助手	武藤 正文	11/18 1/20 3/24	高輝度光源計画における 加速器電磁石の設計	神谷
高工研 助手	飛山 真理	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (日帰り 4回)	電子入射器(高輝度光源計画)の設計	"
高工研 助手	中村 典雄	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (日帰り 4回)	高輝度放射光リングにおけるビームの不安定性の研究	"
高工研 助手	堀 洋一郎	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (日帰り 4回)	高輝度光源計画の加速器における真空システムの設計	"
高工研 助手	家入 孝夫	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (日帰り 4回)	ビーム設計システムの開発研究	"
分子科学研 助教授	磯山 悟朗	11/18~11/19 1/20~ 1/21	アンジュレータの基本設計	"
理化研 研究員	田中 均	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 2日)	直線及び円偏振アンジュレータが電子ビームに与える影響について	"
理化研 研究員	安東 愛之輔	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 2日)	高輝度光源計画のリンク設計及び軌道解析	"
理化研 先任研究員	大熊 春夫	11/18~11/19 1/20~ 1/21 3/24~ 3/25	放射光光源における挿入型光源の研究	"
日本原子力研 副主任研究員	佐々木 茂美	11/18 1/20 3/24	高輝度光源計画におけるインサーションデバイスの設計研究	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (理) 教 授	後 藤 武 生	3/14~ 3/17	[PbI ₆] ⁴⁻ -ネットワー クの励起子の強磁場効 果	三 浦
東北大 (理) D. C. 3	平 澤 正 勝	3/14~ 3/17	"	"
筑波大 (物質工学) 教 授	滝 田 宏 樹	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	希薄磁性半導体の強磁 場物性	"
筑波大 (物質工学) 講 師	黒 田 真 司	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	"	"
筑波大 (物質工学) D. C. 2	児 島 一 聰	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	"	"
筑波大 (物理学) 教 授	舛 本 泰 章	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	ワイドギャップ II-VI 族半導体歪超格子にお ける励起子の強磁場効 果	"
筑波大 (物理学) 助 手	山 田 陽 一	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	"	"
埼玉大 (工) 助 教 授	鎌 田 憲 彦	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	半導体中ホットキャリ アの強磁場物性	"
埼玉大 (工) 助 手	山 口 克 彦	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	"	"
東 大 (養) 教 授	鹿 児 島 誠 一	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 3 日)	有機低次元導体の強磁 場下の物性	"
東 大 (養) 助 手	長 谷 川 達 生	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 3 日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 (理学系) D. C. 1	品 川 秀 行	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 3 日)	有機低次元導体の強磁 場下の物性	三 浦
東 大 (理学系) M. C. 2	山 口 智 弘	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 3 日)	"	"
東 大 (理学系) M. C. 2	齊 藤 裕	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 3 日)	"	"
東 大 (先端研) 講 師	長 田 俊 人	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	低次元・メゾスコピッ ク電子系の強磁場物性	"
東 大 (生 研) 助 教 授	荒 川 泰 彦	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 5 日)	量子細線・量子ドット の磁気光学効果	"
東 大 (生 研) 助 手	西 岡 政 雄	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 5 日)	"	"
東 大 (先端研) 助 手	永 宗 靖	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 5 日)	"	"
東 大 (工) D. C. 1	田 中 琢 爾	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 5 日)	"	"
東 大 (工) M. C. 2	河 野 隆 司	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 5 日)	"	"
山 梨 大 (育) 助 手	渡 辺 勝 儀	2/ 7~ 2/10	Bi _{1.3} 結晶中の積層不整 に束縛された励起子の 超強磁場下における磁 気光学効果	"
広 島 大 (理) 教 授	井 上 正	11/15~11/20	モリブデン酸化物の強 磁場電流磁気効果	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
広島大 (理) 助 手	小矢野幹夫	11/15~11/20	モリブデン酸化物の強 磁場電流磁気効果	三浦
広島大 (理) D. C. 1	原嘉昭	11/15~11/20	"	"
国際超電導 産業技術研究 センター 超電導工学研 主任研究員	中尾公一	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週1日)	パルス超強磁場による 高温超電導体のBc ₂ 測 定	"
国際超電導 産業技術研究 センター 超電導工学研 究員	矢加部久孝	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月2日)	パルス強磁場を用いた 輸送特性評価	"
東北大 (工) 教 授	深道和明	1/10~ 1/13	遷移金属アモルファス 合金および化合物のス ピンの揺らぎ	後藤
東北大 (工) D. C. 3	村田和広	1/10~ 1/13	"	"
東北大 (工) D. C. 2	藤田麻哉	1/10~ 1/13	"	"
東北大 (工) 助教授	鴻岡教行	11/ 8~11/11	二十面体クラスター型 アモルファスの遍歴電 子スピングラス	"
東北大 (工) M. C. 1	橋倉学	11/ 8~11/11	"	"
東北大 (工) M. C. 1	鈴木健	11/ 8~11/11	"	"
東北大 (工) D. C. 2	服部靖匡	12/ 6~12/ 9	希土類超伝導化合物の メタ磁性	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 北 大 (工) M. C. 2	高 田 良 久	12/ 6~12/ 9	希土類超伝導化合物の メタ磁性	後 藤
お 茶 大 (理) 教 授	伊 藤 厚 子	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (14日)	ランダム磁性体の磁化 測定	"
お 茶 大 (人間文化研究科) D. C. 2	邸 乃 力	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"
お 茶 大 (理学研究科) M. C. 2	東 方 綾	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"
お 茶 大 (理学研究科) M. C. 2	深 谷 敦 子	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"
福 井 大 (工) 助 教 授	網 代 芳 民	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (3泊4日・1回)	低次元格子磁性体にお ける磁場誘起相転移	"
福 井 大 (工) M. C. 2	浅 野 貴 行	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (3泊4日・1回)	"	"
京 都 大 (工) 助 教 授	和 田 裕 文	11/15~11/20	Cu中に整合析出した fcc Fe-Co の磁場中変 態	"
京 都 大 (工) M. C. 2	今 井 英 人	11/15~11/20	"	"
京 都 大 (工) M. C. 2	八 重 横 利 武	11/15~11/20	"	"
京 都 大 (理) 助 手	吉 村 一 良	2/14~ 2/21	Yb-Cu 系の価数揺動状 態における強磁場磁化 過程	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
京都大 (理学研究科) M. C. 1	何 軍 輝	2/14~ 2/21	Yb-Cu 系の価数揺動状態における強磁場磁化過程	後 藤
東 大 (養) 助 教 授	久 我 隆 弘	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 6 日)	量子干渉による高感度干渉計の研究	松 岡
東 大 (養) 助 手	平 野 琢 也	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	"	"
筑 波 大 (工学研究科) M. C. 2	飯 村 清 寿	10/21~10/23	高出力パルスレーザーによるX線顕微鏡への応用	黒 田
東 海 大 (工学研究科) M. C. 2	織 茂 聰	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 5 日)	軟X線レーザーに関する研究	"
岡 山 大 (理) 教 授	中 村 快 三	1/18~ 1/22	β -ZnP ₂ における励起子ポラリトンの緩和	末 元
岡 山 大 (理) 助 手	有 本 收	1/17~ 1/22	"	"
岡 山 大 (自然科学研究科) D. C. 1	杉 崎 満	1/17~ 1/22	"	"
岡 山 大 (理) M. C. 1	西 川 光 雄	1/17~ 1/22	"	"
宇都宮大 (養) 助 教 授	江 川 千 佳 司	10/27 11/ 5	fcc 構造鉄薄膜の格子定数と表面物性に関する研究	村 田
横浜国大 (工) 教 授	宇 佐 美 誠 二	10/ 4~10/ 9 3/22~ 3/26	高融点遷移金属への気体の吸着構造と電子状態	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
横浜国大 (工) 助教授	田 中 正 俊	10/ 4~10/ 9 3/22~ 3/26	高融点遷移金属への気体の吸着構造と電子状態	村 田
横浜国大 (工) D. C. 2	中 山 幸 仁	10/ 4~10/ 9 3/22~ 3/26	"	"
横浜国大 (工) D. C. 2	織 田 晃 裕	10/ 4~10/ 9 3/22~ 3/26	"	"
山梨大 (育) 教 授	川 村 隆 明	10/18~10/22	多重散乱法による表面構造の決定	"
京都大 (工) 助 手	中 井 浩 已	1/24~ 1/25	表面励起状態の研究	"
鳥取大 (養) 助教授	石 井 晃	10/ 4~10/ 8	表面ポジトロニウム分光の理論的研究	"
北海道大 (理) 教 授	山 岸 眞 彦	9/15~ 9/19	シリコン基盤の化学修飾による機能性電極への応用	田 中
北海道大 (理) 助 手	谷 口 昌 宏	12/15~12/28	電気化学的手法で作製した合金学結晶表面の構造と反応性	"
北海道大 (触媒化学センター) 助教授	柄 原 浩	10/25~10/31	表面物質形成のアトムプロセス	"
北海道大 (触媒化学センター) 助 手	水 野 清 義	10/25~10/31	"	"
北海道大 (触媒化学センター) 助教授	荒 又 明 子	11/18~11/20	電位印加下での結晶成長に関する研究	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
筑 波 大 (物質工学系) 講 師	中 村 潤 児	3/10~ 3/22	高分解能EELSのMoO _x 蒸着膜への応用	田 中
大 阪 大 (産業科学研究所) 教 授	岩 崎 裕	12/13~12/15	固液界面における原子的プロセス	"
大 阪 大 (産業科学研究所) 助 手	吉 信 達 夫	12/13~12/15	"	"
岡 山 大 (理) 助 手	黒 田 泰 重	12/ 5~12/18	酸化亜鉛薄膜表面の水の吸着状態	"
金 沢 大 (理) D. C. 1	小 池 良 浩	10/18~10/24	Sc金属の核スピン・オーダーの研究	石 本
金 沢 大 (理) M. C. 2	豊 嶋 康 真	10/25~10/31	"	"
金 沢 大 (理) M. C. 1	飯 田 善 一	11/ 1~11/ 7	"	"
京 都 大 (理) 教 授	石 黒 武 彦	10/27~10/29	低次元金属の超低温下電気伝導	"
京 都 大 (理) 助 手	伊 東 裕	10/25~10/29	"	"
千 葉 大 (育) 助 教 授	東 崎 健 一	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月2日)	超低温の実現と高純度金属の熱伝導機構の研究	久保田
千 葉 大 (育) M. C. 1	飯 田 納	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月20日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
北海道大 (理) 教 授	三 本 木 孝	10/12~10/19	二次元半金属の相転移	毛 利
北海道大 (理) M. C. 2	青 木 康 祐	10/12~10/19	"	"
東 北 大 (理) 助 教 授	佐 藤 正 樹	11/ 8~11/12	NiAs型化合物の高圧下 の相転移	"
東 北 大 (理) 助 手	小 林 寿 夫	11/ 8~11/12	"	"
東 北 大 (理) M. C. 2	松 村 武	11/ 1~11/15	高圧下におけるTmモノ カルコゲナイトの物性	"
東 北 大 (科学計測研究所) 講 師	岡 本 博	10/18~10/23	低温高圧下における一 次元ハロゲン架橋金属 錯体の伝導物性	"
東 大 (養) 助 教 授	和 田 信 雄	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週4日)	多重極限装置開発と物 性研究	"
東 大 (理) M. C. 2	井 上 篤 郎	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週4日)	"	"
電 通 大 (電気通信) D. C. 1	石 田 進	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月2回)	静水圧下でのFe ₃ O ₄ の 超音波測定	"
静 岡 大 (理) 助 教 授	石 館 健 男	11/20~11/24	チタン酸バリウムの温 度圧力相図	"
京 都 大 (理学研究科) D. C. 2	加 藤 将 樹	2/14~ 2/21	銅酸化物高温超伝導体 における弱結合効果の 圧力依存性	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
京都大 (理学研究科) M. C. 2	久保田 浩史	2/14~ 2/21	銅酸化物高温超伝導体における弱結合効果の 圧力依存性	毛 利
島根大 (育) 助 教 授	秋 重 幸 邦	10/25~10/29	低温高圧下での酸化物 強誘電体の物性	"
九工大 (情報工学) 教 授	対 馬 国 郎	10/ 1~ 3/31 上記期間中	ビスマス系酸化物超伝 導体単結晶の圧力効果	"
九工大 (情報工学) 助 手	渡 辺 直 寛	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (4泊5日・1回)	"	"
九工大 (情報工学研究科) M. C. 2	中 西 剛 司	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (4泊5日・1回)	"	"
九工大 (情報工学研究科) M. C. 1	深 町 啓 介	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (4泊5日・1回)	"	"
熊本大 (養) 助 教 授	巨 海 玄 道	12/ 5~12/11	重い電子系物質における 圧力誘起電子転移	"
熊本大 (自然科学研究科) D. C. 2	加 賀 山 朋 子	12/ 5~12/11	"	"
熊本大 (理学研究科) M. C. 2	西 村 和 高	12/ 5~12/11	"	"
北海道東海大 (教育開発研究) 教 授	四 方 周 輔	10/18~10/30	高圧下における酸化物 超伝導体の輸送現象	"
北海道東海大 助 教 授	印 東 道 子	12/20~12/24	メスバウア一分光法による 先史土器技術の復元	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
青 学 大 (理 工) 教 授	秋 光 純	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	高圧下による新物質の探索	毛 利
青 学 大 (理 工) M. C. 1	魚 嶋 稔	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	"	"
通 産 省 (電子技術総合) 研究 員	伊 賀 文 俊	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (3 週間)	希土類近藤物質及び Mott-Hubbard型遷移金属酸化物の圧力効果	"
国際超電導産業 技術研究センタ ー超伝導工学研 究所 主任研究員	小 菅 道 和	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	高圧下の酸化物超伝導 体の研究	"
国際超電導産業 技術研究センタ ー超伝導工学研 究所 研究 員	渡 辺 宣 朗	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	"	"
国際超電導産業 技術研究センタ ー超伝導工学研 究所 主任研究員	安 達 成 司	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	銅酸化物の超高圧合成	"
国際超電導産業 技術研究センタ ー超伝導工学研 究所 客員研究員	Patrick LAFFEZ	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
室 蘭 工 大 (工) 教 授	城 谷 一 民	11/ 1～11/11	ZrRuP の高圧合成と超 伝導	八 木
室 蘭 工 大 (工) M. C. 1	館 健 二	11/ 1～11/11	"	"
山 形 大 (理) 助 手	福 永 一 哉	10/25～10/29	高圧下での希ガスの分 配に関する基礎研究	"
東 北 大 (金属材料研究所) 教 授	小 松 啓	11/17～11/19	高圧下でのリゾチーム 結晶の成長	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東北大 (金属材料研究所) 助 手	宮 下 哲	11/17~11/19	高圧下でのリゾチーム 結晶の成長	八木
東北大 (理学研究科) M. C. 2	鈴 木 良 尚	11/17~11/19	"	"
お茶大 (理) 助 教 授	浜 谷 望	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週2日)	ランタンの圧力誘起リ エントラント相転移	"
名古屋大 (理) 助 手	近 藤 忠	10/ 4~10/ 7	下部マントル条件下に おける鉱物の相平衡と 物性	"
大阪大 (基礎工学研究科) M. C. 2	矢 野 公 一	11/ 8~11/13	水酸化カルシウムの圧 力誘起非晶質相転移に ついて	"
愛媛大 (理) 助 教 授	入 船 徹 男	3/ 1~ 3/ 7	超高压下でのケイ酸塩 多成分系の相平衡	"
愛媛大 (理学研究科) M. C. 1	福 濱 勝 臣	12/20~12/25	"	"
愛媛大 (理学研究科) M. C. 1	小 泉 友 美	12/20~12/25	"	"
学習院大 (理) 助 手	鈴 木 敏 弘	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週1日)	高圧高温下における元 素分配	"
中央大 (理 工) 教 授	深 井 有	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週2日)	金属・水素系の超高压 物性	"
東海大 (工) 教 授	坂 田 浩 伸	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週3日)	電気伝導性ガラスの伝 導度に及ぼす超高压の 効果(II)	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
分子科学研究所 助 手	長 谷 川 真 史	10/ 4~10/ 8	超高压重合による高分子錯体単結晶の合成	八 木
電子技術総合 研究 所 主任研究官	近 藤 道 雄	11/10~11/12	高压を用いたアモルファスシリコンの構造準安定性の研究	"
物質工学工業 技術研究所 研 究 員	山 脇 浩	10/25~10/30	二酸化炭素の高温高压実験	"
東 大 (工) 助 教 授	前 田 康 二	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	半導体結晶中の転位運動	竹 内
島 根 大 (育) 教 授	神 志 那 良 雄	12/20~12/22	準結晶の構造と物性	"
青 学 大 (理 工) 助 手	塩 谷 百 合	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	置換型不規則二元合金中の電子状態の計算	"
東京理科大 (理) 教 授	津 田 惟 雄	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 1 日)	準結晶の物性	"
東京理科大 (理学研究科) D. C. 2	吉 岡 明 紀	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 3 日)	"	"
東京理科大 (理学研究科) M. C. 1	本 田 裕 子	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 3 日)	"	"
東京理科大 (理) 教 授	津 田 惟 雄	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 1 日)	高温超伝導体のトンネル効果	"
東京理科大 (理) 助 手	嶋 田 大 介	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東洋大 (工) 助教授	渋 谷 忠 治	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週2日)	準結晶の電気伝導	竹 内
日 大 (文理) 助 手	大 川 哲 植	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週1～2日)	準結晶の構造と物性	"
東北大 (理) 助 手	高 木 滋	10/18～10/23	重い電子系化合物のNMRによる研究	安 岡
東北大 (理学研究科) M. C. 2	楠 本 崇	10/18～10/23	"	"
東北大 (理) M. C. 1	佐 藤 和 久	1/17～ 1/22	"	"
東北大 (金属材料研究所) 助 手	高 梨 弘 育	11/15～11/18	CoCuスパッタ合金膜のNMRによる研究	"
埼玉大 (育) 教 授	津 田 俊 信	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週2日)	酸化物高温超伝導体およびその関連物質の核磁気共鳴	"
信州大 (理) 教 授	永 井 寛 之	1/24～ 1/29	単結晶CeNi ₂ Al ₅ のNMR	"
信州大 (理) 助 手	天 児 寧	1/24～ 1/29	"	"
大阪大 (基礎工学) 助教授	那 須 三 郎	10/25～10/29	鉄中炭素の電子状態	"
大阪大 (基礎工学) M. C. 1	樋 野 村 徹	10/25～10/29	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
徳島大 (工) 助教授	大野 隆	3/15~ 3/22	高温超伝導体 $Y_{1-x}P_x$ $Ba_2Cu_3O_7$ のCu-NQR	安岡
室蘭工大 (工) M. C. 2	安達 隆文	11/ 1~11/11	LaRu ₄ P _{1.2} の磁性	木下
富山県立大 (工) 助手	横道 治男	10/15~11/18	ポーラス半導体における電子スピニ共鳴	"
明治学院大 (一般教育) 助教授	菅野 忠	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月4日)	有機結晶の磁性	"
山形大 (工) 助手	神戸 士郎	10/ 1~10/ 4	酸化物超伝導体のホール係数測定	家
東大 (養) 教 授	鹿児島 誠一	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週3日)	有機低次元導体の角度依存磁気抵抗の研究	"
東大 (養) M. C. 2	花咲 徳亮	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週3日)	"	"
東大 (工) 助教授	為ヶ井 強	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週1日)	高温超伝導体研究のための微小ホール素子の製作	"
東大 (工) 助手	芝内 孝禎	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週1日)	"	"
東大 (工) M. C. 1	大井 修一	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週1日)	"	"
東邦大 (理) 教 授	梶田 晃示	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月3日)	有機伝導体の磁場誘起絶縁体転移と伝導度の異方性	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東邦大 (理) D. C. 3	三島 孝博	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月3日)	有機伝導体の磁場誘起 絶縁体転移と伝導度の 異方性	家
東邦大 (理) M. C. 1	飯森 茂	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月3日)	"	"
お茶大 (理) 助教授	今野美智子	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週1日)	混合原子価化合物の相 転移の研究	武居
東洋大 (工) 助教授	勝亦 徹	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月3日)	Fz法によるBi系超伝導 酸化物単結晶の育成	"
東京工大 (総合理工学) 助手	神藤 欣一	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週1日)	Al基及びNi基規則合金 の機械的性質に関する 第一原理計算	寺倉
静岡大 (工業短期大学部) 教 授	浅田 寿生	12/20	α , β Mnの電子状態	"
静岡大 (工業短期大学部) 助教授	星野 敏春	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (1泊2日・1回)	局在軌道理論による電 子構造の計算	"
大阪大 (養) 助 手	坂本好史	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (1泊2日・1回)	固体表面の計算機シミ ュレーション	"
無機材質 研究所 研究員	小林 一昭	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (週1日)	第一原理分子動力学法 による新物質の構造安 定性と電子状態の研究	"
岡山大 (理) 助教授	原田 黙	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (3泊4日・1回)	磁性体の光学的性質	小谷
大阪府立大 (工) 助 手	田中 智	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (3泊4日・1回)	f 及び d 電子系のX線 発光スペクトルの理論	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
姫路工大 (理) 助 手	坂 井 徹	2/21~ 2/25	低次元磁性体の理論的研究	高 橋 (實)
東北大 (理) 助 手	山 上 浩 志	10/26~10/30	有効ポテンシャル展開法による原子の相関エネルギーの計算	高 田
日 大 (文 理) 専任講師	平 本 尚	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	準周期系の電子状態	甲 元
名工大 (工) 教 授	丸 野 重 雄	12/ 9~12/12	デキシトラン誘導体-磁性酸化鉄超微粒子複合体(DDM)の磁気的性質の研究	電磁気測定
名工大 (工) 助 教 授	坂 本 功	11/ 1~11/ 3	RGa ₂ 希土類化合物の磁性とドハース・ファンアルフェン効果	"
鳥取大 (育) 助 教 授	安 藤 由 和	11/ 8~11/12	RNiSn 単結晶の磁性	"
北陸先端科学技術大学院大学 (材料科学) 助 教 授	栗 栲 牧 生	11/ 8~11/12	"	"
九州共立大 (工) 助 教 授	牧 原 義 一	11/ 8~11/12	"	"
広島大 (総合科学) 助 教 授	高 富 敏 郎	10/ 5~10/ 8	ウラン三元化合物UPt ₂ Inの構造相転移と磁性	"
広島大 (生物圏科学) D. C. 2	前 田 康 臣	10/ 5~10/ 8	"	"
広島大 (生物圏科学) D. C. 1	中 本 剛	10/ 5~10/ 8	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
福岡教育大 教 授	橋 本 侑 三	11/11~11/12	希土類金属間化合物の 磁場相転移の研究	電磁気 測 定
龍 谷 大 (理 工) 助 教 授	西 原 弘 訓	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (3泊 4 日・1回)	超伝導体粉末の磁化率 とフォノンエコー	"
龍 谷 大 (理工学研究科) M. C. 1	町 田 豊 和	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (3泊 4 日・1回)	"	"
龍 谷 大 (理工学研究科) M. C. 1	松 本 早 登 士	10/ 1~ 3/31 上記期間中 (3泊 4 日・1回)	"	"
長野工業高専 助 教 授	藤 原 勝 幸	11/ 9~11/11	酸化物超伝導体 $\text{LaBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_y\text{Hz}$ の磁性	"
高松工業高専 助 教 授	明 神 教 久	1/31~ 2/ 5	希土類化合物 $\text{R}_2\text{Co}_{14}\text{B}$ の磁性研究	"
北 大 触媒化学研究 センタ 教 授	早 川 和 延	12/ 6~12/ 9	R H E E Dにおける回 折円弧の研究	電 子 顕微鏡
東 北 大 (金属材料研) 助 教 授	橋 詰 富 博	1/10~ 1/12	アトムプローブによる 半導体-金属界面の研 究	"
東 北 大 (金属材料研) 助 手	Cho, Kyehyun	1/10~ 1/12	"	"
東 北 大 (理) D. C. 3	花 粟 久 実	1/10~ 1/12	"	"
東 北 大 (理) M. C. 2	岸 本 次 郎	1/10~ 1/12	"	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (工) 講 師	宮 沢 薫 一	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	セラミック材料の高分 解能観察	電 子 顯微鏡
東 大 (工学系研究科) D. C. 3	崔 裕	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	アルミニウム合金の時 効析出組織の構造解析	"
長崎総合大 助 教 授	藤 井 光 廣	10/19～10/22	A I N ウィスカ-の格 子欠陥の研究	"
自治医科大 教 授	青 野 修	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (1泊 2 日・1回)	膜の諸性質の理論	伊 藤
信 州 大 (理) 教 授	勝 木 渥	2/ 8～ 2/19	物性物理学史	外来委
日 大 (理 工) 教 授	西 尾 成 子	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
日 大 (理 工) 専 任 講 師	植 松 英 穂	10/ 1～ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
広島大 (理) 教 授	I-2 谷 口 雅 樹	10/31~11/ 5	逆光電子分光用高分解能光検出器の性能試験	S O R
広島大 (理) 助 教 授	生 天 目 博 文	10/31~11/ 5	"	"
広島大 (理) 助 手	佐 藤 仁	10/31~11/13	"	"
広島大 (理) M. C. 2	三 村 功 次 郎	10/31~11/13	"	"
広島大 (理) M. C. 1	田 村 昌 望	10/31~11/13	"	"
徳山工業高専 助 教 授	植 田 義 文	10/31~11/ 5	"	"
東京農工大 (工) 教 授	I-3 越 田 信 義	11/22~12/ 4	ポーラスシリコンの電子構造の研究	"
東京農工大 (工) 助 手	小 山 英 樹	11/22~12/ 4	"	"
東京農工大 (工) M. C. 2	山 本 有 子	11/22~12/ 4	"	"
東京農工大 (工) M. C. 1	小 黒 剛	11/22~12/ 4	"	"
東 大 (理) 助 教 授	I-4 十 倉 好 紀	12/ 6~12/11	ペロブスカイト型マンガン酸化物の真空紫外分光	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 大 (理) 助 手	有 馬 孝 尚	12/ 6~12/11	ペロブスカイト型マン ガン酸化物の真空紫外 分光	S O R
東 大 (理学系研究科) M. C. 1	勝 藤 拓 郎	12/ 6~12/11	"	"
東 大 (理学系研究科) M. C. 2	山 口 伸 也	12/ 6~12/11	"	"
東 大 (理学系研究科) M. C. 1	I - 4 沖 本 洋 一	12/ 6~12/11	"	"
東 大 (理学系研究科) M. C. 1	漆 原 晃	12/ 6~12/11	"	"
東 大 (理学系研究科) M. C. 1	稻 葉 房 恵	12/ 6~12/11	"	"
東 北 大 (科学計測研) 助 教 授	I - 5 服 部 武 志	2/ 7~12/19	β -アルミナのバンド 端構造の研究	"
東 北 大 (科学計測研) 技 官	千 葉 裕 輝	2/ 7~12/19	"	"
東 北 大 (理学研究科) D. C. 3	河 原 田 至	2/ 7~12/19	"	"
東 北 大 (理学研究科) M. C. 1	加 納 英 樹	2/ 7~12/19	"	"
琉 球 大 (育) 教 授	I - 6 江 尻 有 郷	2/27~ 3/11	金属ドープフラーレン の光学的性質	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 (養) 助 手	波 田 野 彰	2/28~ 3/12	金属ドープフラーーン の光学的性質	S O R
神 戸 大 (発達科学) 助 教 授	中 川 和 道	2/28~ 3/12	"	"
大阪府立大 (工) 教 授	II - 2 会 田 修	11/ 8~11/11	共鳴光電子分光法によ るセリウム化合物の 4 f 電子状態の研究	"
大阪府立大 (工) 助 教 授	市 川 公 一	11/ 8~11/17	"	"
大阪府立大 (工) 講 師	曾 田 一 雄	11/17~11/27	"	"
大阪府立大 (工) 助 手	田 中 智	11/17~11/27	"	"
大阪府立大 (工) 助 手	田 口 幸 広	11/ 8~11/17	"	"
大阪府立大 (工) D. C. 3	梅 原 隆	11/ 8~11/17	"	"
大阪府立大 (工) D. C. 1	松 本 雅 美	11/17~11/27	"	"
大阪府立大 (工) M. C. 2	定 田 浩 一	11/ 8~11/17	"	"
大阪府立大 (工) M. C. 1	景 山 将 系	11/17~11/27	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大学 (電気通信研) 教 授	II - 3 宮 本 信 雄	12/ 1~12/ 3	シリコン表面のオゾン 酸化過程の研究	S O R
東北大学 (電気通信研) 助 教 授	庭 野 道 夫	11/29~12/ 4	"	"
東北大学 (電気通信研) 助 手	遠 田 義 晴	12/ 6~12/11	"	"
東北大学 (工学研究科) M. C. 2	木 梨 幸 治	12/ 6~12/11	"	"
東北大学 (工学研究科) M. C. 2	影 山 准 一	11/29~12/11	"	"
東北大学 (工学研究科) M. C. 1	澤 輜 純 一	12/ 6~12/11	"	"
東工大 (工業材料研) 教 授	II - 4 川 副 博 司	12/13~12/18 3/ 7~ 3/12	電導性ns°スピネル型 酸化物の電子構造の解 明	"
分子研 助 手	植 田 尚 之	12/13~12/18 3/ 7~ 3/12	"	"
東工大 (総合理工学研究科) D. C. 3	小 俣 孝 久	12/13~12/18 3/ 7~ 3/12	"	"
東工大 (総合理工学研究科) D. C. 2	安 川 雅 啓	12/14~12/18 3/ 8~ 3/12	"	"
東工大 (総合理工学研究科) D. C. 1	溝 口 拓	12/14~12/18 3/ 8~ 3/12	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東工大 (総合理工学研究科) M. C. 2	海野 浩志	12/13~12/18 3/ 7~ 3/12	電導性ns°スピネル型 酸化物の電子構造の解 明	S O R
東工大 (総合理工学研究科) M. C. 1	石黒 誠	12/13~12/18 3/ 7~ 3/12	"	"
東工大 (総合理工学研究科) M. C. 1	山下 裕久	12/13~12/18 3/ 7~ 3/12	"	"
早 大 (理工学研究科) M. C. 2	柳川 和彦	12/13~12/18 3/ 7~ 3/12	"	"
東 大 (理) 助教授	II-5 藤森 淳	2/ 7~ 2/19	ペロブスカイト型Ru, Ir酸化物の光電子分光	"
東 大 (理) 助手	溝川 貴司	2/ 7~ 2/19	"	"
東 大 (理学系研究科) D. C. 2	森川 啓志	2/ 7~ 2/19	"	"
東 大 (理学系研究科) D. C. 1	島田 賢也	2/ 7~ 2/19	"	"
東 大 (理学系研究科) D. C. 1	齋藤 智彦	2/ 7~ 2/19	"	"
東 大 (理学系研究科) M. C. 1	藤岡 健吾	2/ 7~ 2/19	"	"
東 大 (理学系研究科) M. C. 1	小西 健久	2/ 7~ 2/19	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東京農工大 (工) 助 教 授	II - 6 須 田 良 幸	2/21～3/ 5	光電子分光法による多孔質Siの電子構造に関する研究	S O R
東京農工大 (工) 教 授	越 田 信 義	2/21～3/ 5	"	"
東京農工大 (工学研究科) M. C. 2	伴 拓 弥	2/21～3/ 5	"	"
東京農工大 (工学研究科) M. C. 1	小 泉 友 弘	2/21～3/ 5	"	"
東 北 大 (電気通信研) 助 教 授	III - 1 庭 野 道 夫	10/25～10/30	半導体表面吸着分子の放射光励起反応機構の研究	"
東 北 大 (電気通信研) 助 手	下 敷 領 文 一	11/ 8～11/13	"	"
東 北 大 (工学研究科) M. C. 2	木 梨 幸 治	10/25～11/13	"	"
東 北 大 (工学研究科) M. C. 1	澤 幡 純 一	10/25～11/ 6	"	"
神 戸 大 (自然科学研究科) 助 手	IV - 1 木 村 真 一	1/24～2/12	希土類酸化物の光電子スペクトル	"
東 北 大 (理学研究科) D. C. 2	荒 井 史 隆	1/24～2/10	"	"
東 北 大 (理学研究科) M. C. 2	佐 藤 康 彦	1/24～2/10	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
国際基督教大 講 師	V-1 高倉かほる	11/ 8~12/11	真空紫外線(>50nm) による生物影響の分子 的機構	S O R
立教大 (理) 教 授	檜枝光太郎	11/ 8~12/11	"	"
立教大 (理) 教 授	松平頼暁	11/ 8~12/11	"	"
立教大 (理) M. C. 1	鈴木慶二	11/ 8~12/11	"	"
国際基督教大 (理) 教 授	石川光男	11/ 8~12/11	"	"
国際基督教大 M. C. 1	吉田尚美	11/ 8~12/11	"	"
大阪府立大 (付属研) 講 師	恵恒雄	11/ 8~12/11 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"
大阪府立大 (付属研) 助 教 授	藤田慎一	11/ 8~12/11 上記期間中 (4泊5日・1回)	"	"
高工研 助 教 授	小林克己	11/ 8~12/11 上記期間中 (1泊2日・1回)	"	"
総合大学院大 院 生	渡辺立子	11/ 8~12/11	"	"
総合大学院大 院 生	安藤ひろ美	11/ 8~12/11	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
総合大学院大 院 生	森 本 茂 子	11/ 8~12/11	真空紫外線(>50nm) による生物影響の分子 的機構	S O R
神奈川大 講 師	峯 岸 安 津 子	11/ 8~12/11	"	"
基 生 研 助 教 授	渡 辺 正 勝	11/ 8~12/11 上記期間中 (1泊2日・1回)	"	"
奈良医大 助 教 授	岡 市 協 生	11/ 8~12/11 上記期間中 (4泊5日・1回)	"	"
奈良医大 助 手	井 原 誠	11/ 8~12/11 上記期間中 (4泊5日・1回)	"	"

平成 6 年度前期共同利用の公募について

1. 公募事項 (添付の要項参照)

- (1) 留学研究員 (平成 6 年 4 月～平成 6 年 9 月実施分)
- (2) 共同利用 (一般・S O R) (平成 6 年 4 月～平成 6 年 9 月実施分)
- (3) 共同利用 (中性子) (平成 6 年 4 月～平成 7 年 3 月実施分)
- (4) 短期研究会 (平成 6 年 4 月～平成 6 年 9 月実施分)

2. 申請資格 : 国, 公, 私立大学及び国, 公立研究機関の教官, 研究者並びにこれに準ずる者。

3. 申請方法 : (1) 共同利用については, 外来研究員申請書を提出のこと。

ただし, 軌道放射物性研究施設及び中性子散乱実験設備の共同利用については, 申請方法が異なるので 8～4 ページを参照のうえ, 申請のこと。

- (2) 短期研究会については, 提案代表者より短期研究会申請書を提出のこと。

4. 申請期限 : (1) 中性子の共同利用

平成 5 年11月30日 (火)

- (2) S O R の共同利用

平成 5 年11月30日 (火)

- (3) その他の共同利用

平成 5 年12月24日 (金)

5. 申込み先 : 〒106 東京都港区六本木 7 丁目22番1号

東京大学物性研究所 総務課 共同利用掛

電話(03)3478-6811 内線5004, 5032

6. 審査 : 研究課題の採否, 所要経費の査定等は共同利用施設専門委員会において行い, 教授会で決定する。

7. 採否の判定 : 平成 6 年 3 月中旬

8. 研究報告 : 共同利用研究 (共同利用及び留学研究員) については 1 期 (半年) ごとに実施報告書 (所定の様式による) を提出のこと。また, 共同利用研究によって得た

成果の論文の別刷2部を総務課共同利用掛あて提出のこと。

9. 宿泊施設 : (1) 東京大学物性研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。
(2) 軌道放射物性研究施設の共同利用については、東京大学原子核研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。
(3) 中性子散乱実験設備の共同利用については、東京大学工学部共同利用研究員宿舎が利用できる。
10. 学生教育研究災害傷害保険の加入 : 大学院学生は『学生教育研究災害傷害保険』に加入されるようご配慮願いたい。

外来研究員について

物性研究所においては、共同利用研究業務として、全国物性研究者の研究遂行に資するため、各種研究員制度が設けられています。これら研究員の公募は、半年ごとに行っております。外来研究員制度は個々の申請を検討のうえ実行されておりますが、特別な事情のある場合を除いて、あらかじめ共同利用施設専門委員会の了承を得る建前をとっておりますので、下記ご参照のうえ期日までに応募されるようお願いします。

その他、外来研究員制度の内容あるいは利用する設備等に関してお判りにならないことがあれば外来研究員等委員会委員長 武居 文彦（内線5721）までご連絡ください。

なお、留学研究員または共同利用に申請される場合は、事前に必ず利用される研究室等の教官と打ち合わせのうえ申請書を提出してください。

申請書用紙が必要な方は総務課共同利用掛（内線5004, 5032）までご請求ください。

記

1. 各種研究員

a. 嘱託研究員

- (1) 所外研究者に本所の研究計画及び共同研究計画の遂行上必要な研究を委嘱することを目的としています。
- (2) 嘱託研究員の委嘱は、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。

b. 留学研究員

- (1) 大学、官庁、その他の公的研究機関に在籍する若い研究者に、留学の便宜を提供することを目的とした制度です。
- (2) 資格としては、助手ないし大学院博士課程程度の研究歴に相当する方を対象としています。
- (3) 研究は所員の指導のもとで行います。大学院学生の場合、原則として指導教官を嘱託研究員に委嘱します。
- (4) 申請は別紙（様式1）の申請書を提出してください。（必要な方は直接総務課共同利用掛までご請求ください。）

c. 共同利用

○ 一般の共同利用

- (1) 所外研究者が研究の必要上、本所の施設を利用したい場合、その便宜を提供できるようにしております。

(2) 共同利用は「共同研究」と「施設利用」の2つの形態に分けられます。共同研究と施設利用では採択率、充足率が異なる場合があります。

また、共同研究、施設利用それぞれに、1年以内に研究を集中して遂行する「短期集中型」の利用形態が設けられています。短期集中型を希望して認められた場合には充足率を高くしますが、その後しばらくの期間、共同利用を見合せていただくことがあります。

(3) 共同利用をご希望の方は、別紙（様式2）の申請書を提出してください。

- 軌道放射物性研究施設の共同利用（52ページ参照）
- 中性子散乱実験設備の共同利用（53ページ参照）

2. 採否決定

上記各種研究員受入れの可否は、共同利用施設専門委員会において、申請された研究計画、研究歴及び所内諸条件を審査検討し、教授会で決定します。

採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用する方には、「外来研究員等の放射線管理内規」に従って、別紙（様式6）の「放射線業務従事承認書」を提出していただきます。

3. 実施報告書

留学研究員及び共同利用で来所の方には、1期（半年）ごとに終了後30日以内に別紙（共同研究及び短期集中型の施設利用は様式4、一般の施設利用及び留学研究員は様式5）による外来研究員実施報告書を提出していただきます。

4. 別刷の提出

外来研究員として来所されて行われた研究に関する論文の別刷2部を必ず総務課共同利用掛に提出してください。また、論文を発表される場合、謝辞の所に東京大学物性研究所の共同利用による旨の文章を入れていただくことを希望します。英文の場合の参考として、次のような例文をあげておきます。

- a) This work was carried out under the Visiting Researcher's Program of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- b) This work was carried out by the joint research in the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- c) This work was performed using facilities of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

5. 経 費

旅費、滞在費及び研究に要する経費は、個々の申請に基づいて共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。

6. そ の 他

- (1) 予算の支出、諸施設の利用、設備の管理等については、関係する所員の指示に従ってください。
- (2) 申請書は、必ず別紙様式のものを使用してください。

○ 軌道放射物性研究施設の共同利用

0.38 GeV電子ストーリジング(SOR-RING)からの放射光を用いる共同利用実験の申込みについてはマシンタイムの調整を行う必要上、物性研共同利用の正式申込みの以前に下記の要領で物性研軌道放射物性研究施設あて申込んでください。

- (1) 対象となる実験：ES及びSOR-RINGからの放射光を利用する実験。
- (2) 実験期間：平成6年4月中旬から平成6年7月中旬までの期間で、利用できるマシンタイムは総計約3か月間。ただし、各ビームラインによって多少異なります。
- (3) 利用できる設備：
 - (1) SOR-RING第1ビームライン
1M縦分散瀬谷-波岡型直入射分光器
 - (2) SOR-RING第2ビームライン
2M縦分散変形ローランド型斜入射分光器、光電子分光測定装置一式
 - (3) SOR-RING第3ビームライン
自由ポート
 - (4) SOR-RING第4ビームライン
平面回折格子型斜入射分光器
 - (5) SOR-RING第5ビームライン
 - (6) SOR-RING第1'ビームライン
自由ポート

なお、第3、第4ビームラインでの実験及び準備研究的な実験については、申込み前に当施設に御相談ください。

(4) 申込み要領

- (1) 希望するビームライン
 - (2) 申請研究課題
 - (3) 申請代表者及び実験参加者、所属・職・氏名
 - (4) 実験期間及び実施希望時期
 - (5) 実験の目的・意義及び背景（1,000字程度でわかりやすく書いてください。）
 - (6) 関連分野における申請者のこれまでの業績（5編以内）
 - (7) 実験の方法（800字程度、危険物や超高真空系を汚染する可能性のある物質等を使用する場合は、明示のうえ安全対策の方法を記すこと。）

(8) 使用装置（持込み機器も含めて）

(9) 物性研共同利用施設運営費よりの負担を希望する消耗品の種類と費用の概算

上記項目につき記入した申請書のコピー8部（A4サイズ用紙）を下記申込み先あて送付してください。

(5) 申込み先：〒188 東京都田無市緑町3丁目2番1号

東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設

電話 (0424) 69-2296 (ダイヤルイン)

(「共同利用申込み」と表記のこと)

(6) 申込み期限：平成5年11月30日（火）必着とします。

(7) 審査：物性研軌道放射物性研究施設運営委員会において審査し、採用された研究課題についてはその実験計画に従い改めて物性研外来研究員申請書及び放射線業務従事承認書を直接総務課共同利用掛（〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号 東京大学物性研究所）に提出していただきます。

○ 中性子散乱実験設備の共同利用

(1) 中性子散乱実験設備の共同利用は、通年公募方式によって行われており、公募要領は当該年度の前年10月中に関係機関長あてに送付され、11月末に締め切られる。

申請期限：平成5年11月30日（火）

(2) 申請用紙は下記あて請求し、必要事項を記入のうえ、同施設あて締め切り期日までに8部（7部は複写でも可）提出すること。

〒319-11 茨城県那珂郡東海村白方日本原子力研究所東海研内

東京大学物性研究所附属中性子散乱研究施設

TEL／FAX (0292)82-5782/8709

(3) 申請された研究課題は、物性研究所中性子散乱研究施設運営委員会及び物性研究所共同利用施設専門委員会で審査し、教授会で決定された後、結果を実験責任者あて通知する。

(4) 研究課題の申請は、原則として上記の通り年1回であるが、特に緊急を要する課題が生じ

た時は、その理由を付して、上記中性子散乱研究施設運営委員会委員長あて随時申請することができる。

(5) 実験終了後、所定の様式で成果報告書を提出することが求められる。

(6) 受付け課題の種類

中性子散乱装置の共同利用研究課題として次の2種類の課題を受け付ける。

- a) 一般課題
- b) 装置グループ I M T * (Instrument and Maintenance Team) 課題

* I M T 課題については、第⑩、⑪項を参照のこと。

(7) 共同利用に供される中性子散乱実験設備については、申請用紙の添付資料「改造3号炉中性子散乱実験設備の概要」を参照してください。

但し、2号炉に設置された「偏極解析中性子散乱装置（P A N S I）」は、運転を停止するので、利用できません。

(8) 一般課題の採択手順

- 1) 装置グループ（I M T）による課題の技術的検討
- 2) 2人のレフリーによる課題の学問的内容の審査
- 3) 実験審査委員会**（N S P A C）による審議を経て、上部委員会に提案される**実験審査委員会（N S P A C）は中性子散乱装置の共同利用研究課題の審査実務を分担する組織で中性子散乱研究施設運営委員会の下部機構である。

(9) 課題採択スケジュール

10月中旬	公募の手引き配付
11月30日	公募の締切
12月中旬	I M Tによる技術的審査、I M T間での意見交換
12月下旬	課題申請書とI M Tの技術的コメントを2人のレフリーに配付
1月中旬	レフリーの判定報告の締切
1月下旬	実験審査委員会（N S P A C）で採択審査
2月上旬	各運営委員会の審議決定

(10) 装置グループ（IMT）について

JRR-3の中性子散乱装置群の維持・管理に責任を持つ組織として装置グループIMTが編成されている。IMTの任務と権利等は以下のとおりである。

1) IMTに割り当てられるマシンタイム（比率P）の内容

- i) 分光器の調整
- ii) 分光法開発、試料環境等附属装置の開発
- iii) 試料のチェック
- iv) テスト実験及び緊急課題の遂行
- v) 教育

2) IMTメンバーは上記1)に記された項目について、所属する装置グループのマシンタイムを自由に使用することができる。

3) IMTメンバーの任務

- i) 分光器の調整、整備
- ii) 試料のチェック
- iii) 一般利用者の実験の援助

(11) マシンタイムの配分

$(1 - P)$: 一般課題に割り当てられるマシンタイムの比率。装置責任者・IMTメンバーも含めて、各研究者が各自の研究計画に基づき申請書を提出し、実験審査委員会（NSPAC）及び運営委員会の審議により決定される。

(P) : IMTに割り当てられるマシンタイム。

なお、比率（P）の値は各IMTの申請に対し、実験審査委員会（NSPAC）及び運営委員会等で審査して年度毎に決定される。

短期研究会について

短期研究会は、物性研究上興味深い特定のテーマについて全国の研究者が1～3日間程度研究会を開き、集中的に討議するもので、提案代表者は内容、規模等について関係研究者と十分検討のうえ、申請してください。

記

1. 申請方法：代表者は別紙申請書（様式3）を提出してください。
2. 提案理由の説明：提案代表者は、内容、規模等について共同利用施設専門委員会で説明していただきます。
3. 採否決定：共同利用施設専門委員会の審議を経て教授会が決定します。
4. 経費：共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。
5. 報告書：提案代表者は、研究会終了後すみやかに物性研だよりに掲載する研究会報告書を提出してください。執筆に関する要領は別にお知らせします。

共同利用施設専門委員会委員

小菅 皓二	京大(理)	川合 知二	阪大(産研)
小松原 武美	東北大(理)	菅 滋正	阪大(基礎工)
吉成 武久	山形大(理)	興地 斐男	阪大(工)
大林 康二	広島大(総合)	遠藤 康夫	東北大(理)
津田 惟雄	東京理科大(理)	倉本 義夫	東北大(理)
本河 光博	神戸大(理)	大貫 慎睦	筑波大(物質工)
秋光 純	青山学院大(理工)	斯波 弘行	東工大(理)
櫛田 孝司	阪大(理)	天児 寧	信州大(理)
張 紀久夫	阪大(基礎工)	大隅 一政	高エネルギー物理学研究所
十倉 好紀	東大(理)	花崎 一郎	分子科学研究所
安積 徹	東北大(理)	その他物性研究所員	

外来研究員等の放射線管理内規

(昭和57.7.21制定)

放射線障害予防規程第45条第3項に定める外来研究員等の放射線管理については以下のとおりとする。

1. 六本木地区

- (1) 物性研究所放射線管理室（以下「管理室」という。）は、外来研究員等の共同利用申込が承認された時に、その所属する大学又は事業所に対し「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」及び「放射線業務従事承認書」を送付する。
- (2) 外来研究員等は、放射線取扱いに先立って「放射線業務従事承認書」を管理室に提出するものとする。
- (3) 本所の放射線施設及び放射線発生装置等を初めて利用する外来研究員等に対し、当該施設の放射線管理責任者は、放射線取扱いの開始前に放射線発生装置あるいは放射性物質等の安全取扱い、立入記録の記入等についての教育訓練を実施する。
- (4) 放射線管理責任者は、外来研究員等について、フィルムバッジ等の着用の有無を確認し、それ等を持たない場合は、個人被曝線量計を貸与し被曝線量当量を測定し記録するものとする。

2. 日本原子力研究所内（東海村）－中性子散乱実験装置

中性子散乱実験装置等を利用する外来研究員等は、日本原子力研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

3. 東大原子核研究所内（田無市）－軌道放射物性研究施設

軌道放射物性研究施設を利用する外来研究員等の放射線管理については、「軌道放射物性研究施設に係る覚書」によって行う。

4. 高エネルギー物理学研究所内設置の軌道放射物性研究施設分室を利用する外来研究員等は、高エネルギー物理学研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

附 則

この内規は、平成元年4月1日から施行する。

物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等 の派遣についての了解事項

1. 外来研究員等及び所属機関の責任者は、物性研究所の放射線施設の利用に際して、以下の事項を承諾するものとする。

2. 外来研究員等は、本所放射線障害予防規程及び当該放射線施設の管理内規に従う。

3. 外来研究員等が利用する放射線施設等に係る管理責任（放射線発生装置、放射性物質の安全取扱い、管理区域等の線量当量の測定等の管理）は、物性研究所にあるが、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」等で定める放射線業務従事者としての認可及び個人管理は、外来研究員等の所属機関の責任において行う。

放射線業務従事者としての認可及び個人管理とは、

(1) 教育訓練（物性研究所における放射線発生装置等の安全取扱いに係る教育訓練は除く）の受講。

(2) 血液検査などの健康管理。

(3) 個人被曝線量当量の測定。

(4) 放射線業務に従事することの可否の判定。

4. 放射線業務に従事する外来研究員等は、所属機関の放射線取扱主任者及び管理責任者が認める放射線業務従事承認書を、物性研究所放射線管理室に提出する。

5. 個人被曝線量計（フィルムバッジ等）は、原則として所属機関より持参し、着装して放射線業務に従事するものとする。

但し、個人被曝線量計のない場合は、当該施設又は放射線管理室が貸与する。

様式 1

外来研究員（留学研究員）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 _____

職名又は学年 _____

ふりがな
氏 名 _____

(印)

級号棒 _____

級 _____

号棒 _____

級号棒発令年月日 (年 月 日) _____

申請者の連絡先 電話 _____

内線 _____

FAX _____

下記研究計画により留学研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目

研究目的

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。

○研究予定期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○放射線業務に従事することの有無。 有 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名 (部門 _____ 研究室) _____

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。
□していない □している
申請している場合の研究室、共通実験室名 (_____)

※ 本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」（様式6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月 日～月 日 (週・月 日)

月 日～月 日 (週・月 日)

月 日～月 日 (週・月 日)

② 宿泊を必要とする申請者

月 日～月 日 (泊 日) 月 日～月 日 (泊 日)

月 日～月 日 (泊 日) 月 日～月 日 (泊 日)

月 日～月 日 (泊 日) 月 日～月 日 (泊 日)

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利用頻度： ① 新規 ② 過去5年間何回位利用していますか。 (回)

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成 年 月 日

申請者の所属長職・氏名

印

様式 2

外来研究員（共同利用）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 _____

職名又は学年 _____

氏 名 _____

(印)

級号棒 _____

級 _____

号棒 _____

級号棒発令年月日（ 年 月 日） _____

申請者の連絡先 電話 _____

内線 _____

FAX _____

下記研究計画により外来研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目（グループで研究する場合は代表者名を記入すること。）

研究目的（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）

○短期集中型を希望する場合、期間（原則として1年以内）を明記してください。
平成 年 月 日～平成 年 月 日

○共同研究・施設利用を希望する。（○で囲むこと）

○放射線業務に従事することの有無。 有・無（○で囲むこと）

希望部門 研究室名（ 部門 研究室）

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 してない している
申請している場合の研究室、共通実験室名（ _____ ）

※ 本紙をコピーして使用する場合は、A4版サイズにして下さい。

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」（様式6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月　　日～　　月　　日　　(週・月)　　日
月　　日～　　月　　日　　(週・月)　　日
月　　日～　　月　　日　　(週・月)　　日

② 宿泊を必要とする申請者

月　　日～　　月　　日(泊　日)　　月　　日～　　月　　日(泊　日)
月　　日～　　月　　日(泊　日)　　月　　日～　　月　　日(泊　日)
月　　日～　　月　　日(泊　日)　　月　　日～　　月　　日(泊　日)

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利用頻度： ① 新規 ② 過去5年間何回位利用していますか。 (回)

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成　　年　　月　　日

申請者の所属長職・氏名

印

短 期 研 究 会 申 請 書

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

提案代表者

所 属

職 名

氏 名

(印)

連絡先 電 話 内線

F A X

下記のとおり短期研究会の開催を提案したいので申請します。

記

1. 研究会の名称

2. 提案理由

理由書は、400字以上600字まで（A4版横書き）とし、提案理由及び研究会内容がよくわかるように記載してください。

特に物性研で開催することの必要性や意義を明記してください。

3. 開催期間

月 日 ～ 月 日 (日間)

開始時間 _____ :

4. 参加予定者数 約 名

5. 希望事項 (○で囲む)

予稿集 : 有 • 無 その他希望事項

公開 • 非公開

6. その他 (代表者以外の提案者)

所属機関・職名を記入のこと

様式 3-2

7. 旅費の支給を必要とする者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

様式 3 - 3

8. その他主要参加者

	氏 名	所 属	職 名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

様式 4

平成 年 月 日

外來研究員 共 同 研 究 実 施 報 告 書
施設利用（短期集中型）

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

印

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間 自 平成 年 月 日
 至 平成 年 月 日

③ 利用研究室または
共通実験室名 _____

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏 名	職 名	所 属 名	備 考

- ⑤ 研究実施経過（利用機器、利用手段方法、約 1,000字（A4版横書き））
⑥ 成果の公表の方法（投稿予定の論文のタイトル、雑誌名など。短期集中型の場合は終了時のみ）

注 意

- (1) グループ研究の場合、代表者が記入のこと。
(2) 各期終了後30日以内に提出すること。

平成 年 月 日

外 来 研 究 員 施 設 利 用 実 施 報 告 書
留 学 研 究 員

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

(印)

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間 自 平成 年 月 日
 至 平成 年 月 日

③ 利用研究室または
共通実験室名 _____

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏 名	職 名	所 属 名	備 考

⑤ 研究実施経過（利用機器、利用手段方法、成果、約400字（A4版横書き））

注 意

- (1) グループ研究の場合、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

様式 6

平成 年 月 日

放 射 線 業 務 従 事 承 認 書

東京大学物性研究所長 殿

機 関 名

所 在 地

放射線取扱主任者名

印

所属機関代表者名

印

当機関は、「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」を承諾して、下記の者が貴研究所において放射線業務に従事することを承認しましたのでよろしくお願いします。

なお、下記の者については、当機関において放射線障害防止法、あるいは人事院規則(10-5)等の法規に基づいて放射線業務従事者として管理が行われていることを証明します。

記

氏 名	年令	身 分	所属学科・部課等	年現在の合計被爆線量当量(mSv)	過去1年間の被爆線量当量(mSv)
放射線業務従事期間			年 月 日から 年 月 日まで		
物性研究所利用施設					

(注) この承認書の有効期間は、年度末までです。

Technical Report of ISSP 新刊リスト

Ser.A.

- No.2709 Isochoric Pressure and ${}^3\text{He}$ Quasiparticle Effective Mass in ${}^3\text{He}$ - ${}^4\text{He}$ Mixture under Pressure. by Shinichi Yorozu, Hiroshi Fukuyama and Hidehiko Ishimoto.
- No.2710 Direct Observation of the Semimetal to Semiconductor Transition in Crossed Band Gap Superlattices at Magnetic Fields of up to 150T. by D. J. Barnes, R. J. Nicholas, R.J.Warburton, N.J.Mason, P.J.Walker and N.Miura.
- No.2711 Single Electron Tunneling and Phase Transitions in Ultra Small Tunnel Junctions. by Shingo Katsumoto.
- No.2712 Quantum Hall Effect in the Field - Induced Spin Density Wave States. by Yasumasa Hasegawa, Kazushige Machida, Mahito Kohmoto and Victor M. Yakovenko.
- No.2713 Consideration of the Mechanism of Superconductivity in Fullerenes : Beyond Migdal's Theorem and Dynamic Coulomb Effect. by Yasutami Takada.
- No.2714 Magnetic Phase Transition in AgCrO_2 . by Yasuaki Oohara, Setsuo Mitsuda, Hideki Yoshizawa, Nariyasu Yaguchi, Hideaki Kuriyama, Takayuki Asano and Mamoru Mekata.
- No.2715 Magnetic Anisotropy and High Field Magnetization Process of CeCo_5 . by M.I Bartashevich, Tsuneaki Goto, R. J. Radwanski and A. V. Korolyov.
- No.2716 The Role of the Effective Mass in the Hot - Electron Magnetophonon

Resonance in n - Type Germanium. by Hideki Futagawa, Noboru Miura, Koji Yamada, Norihiko Kamata, Akira Kowata and Chihiro Hamaguchi.

No.2717 Far - Infrared Properties of $\text{Bi}_2\text{Sr}_2\text{Ca}_2\text{Cu}_3\text{O}_x$ at Pulsed High Magnetic Fields. by Yasuhiro Shimamoto, Tadashi Takamasu, Noboru Miura, Nobuhiko Kubota and Yuh Shiohara.

No.2718 Magnetic Property and Phase Diagram of a Frustrated System with Competing Exchange Interactions, $\text{Fe}_x\text{Mn}_{1-x}\text{TiO}_3$. by Hiroko Aruga Katori and Atsuko Ito.

No.2719 Crystal Structure and Superconductivity of $\text{La}_{2-x}\text{Ba}_x\text{CuO}_4$ ($0.03 < X < 0.24$). by Susumu Katano, J.A.Fernandez - Baca, Satoru Funahashi, Nobuo Môri, Yutaka Ueda and Keiichi Koga.

No.2720 New Method for Studying Surface and Interface Structures Using Kossel Lines. by Toshio Takahashi and Masamitu Takahashi

No.2721 Present Status of SOR - RING. by Hirofumi Kudo, Kenji Shinoe, Hiroyuki Takaki, Tadashi Koseki, Haruo Ohkuma and Yukihide Kamiya.

No.2722 Measurement of Beam Bunch Length at SOR - RING. by Tadashi Koseki, Haruo Ohkuma, Kenji Shinoe, Hirofumi Kudo, Hiroyuki Takaki, Yukihide Kamiya, Yoshinori Hashimoto, Hitoshi Masuda and Masayuki Muto.

No.2723 Single - Mode Cavity with HOMs Absorber. by Tadashi Koseki, Yukihide Kamiya and Masaaki Izawa.

No.2724 The Origin of Anomalous Angular Dependent Magnetoresistance Oscillation Effect in - (BEDT - TTF)₂KHg(SCN)₄. by Yasuhiro Iye, Ryuta Yagi, Noriaki Hanasaki, Seiichi Kagoshima, Hatsumi Mori,

Hiroki Fujimoto and Gunzi Saito.

- No.2725 Photoemission and Bremsstrahlung Isochromat Spectroscopy Studies of TiO_2 (Rutile) and $SrTiO_3$. by Yasuhisa Tezuka, Shik Shin, Takehiko Ishii, Takeo Ejima, Shoji Suzuki and Suzuki and Shigeru Sato.
- No.2726 Hyper-Raman and Raman Studies on the Phase Transition of the Ferroelectric $LiTaO_3$. by Yasuhisa Tezuka, Shik Shin and Mareo Ishigame.
- No.2727 Resonant Photoemission Study of CeO_2 . by Masami Matsumoto, Kazuo Soda, Koichi Ichikawa, Satoshi Tanaka, Yukihiro Taguchi, Koichi Jouda, Osamu Aita, Yasuhisa Tezuka and Shik Shin.
- No.2728 Deviatoric Stress Measurement under Uniaxial Compression by a Powder X-ray Diffraction Methods. by Nobumasa Funamori, Takehiko Yagi and Takeyuki Uchida.
- No.2729 Homogeneous Linewidth of Praseodymium Ions in Various Inorganic Materials. by Tsuyoshi Okuno, Koichiro Tanaka, Kazuko Koyama, Mitsuru Namiki and Tohru Suemoto.
- No.2730 Physical Properties of Quasicrystals - An Experimental Review -- . by Shin Takeuchi.
- No.2731 Effect of the Pressure-Temperature History on T_c and the Hall Coefficient in Superconducting $Tl_2Ba_2CuO_{6+x}$. by Hiroki Takahashi, Anne-Katrin Klehe, Creig Looney, James S. Schilling, Nobuo Mori, Yuichi Shimakawa, Yoshim Kubo and Takashi Manako.
- No.2732 Green's-Function Approach to the Polaron Problem : Migdal's Approximation and Beyond. by Yasutami Takada.

No.2733 Integral Quantum Hall Effect on an Annulus. by Yshai Avishai and
Mahito Kohmoto.

編集後記

年末もせまり本年の最後の号になりました。

今回は物性研究所改組計画、平成五年度後期の計画と平成六年度の共同利用の公募が主となりました。今回寄稿はありませんでしたが編集部としては多くの寄稿を期待しています。

なお、次号の締切りは12月10日です。

高橋 實

福谷 克之

